

## 7月10日 ソロモン諸島の地震 7月18日 サンタクルーズ諸島の地震

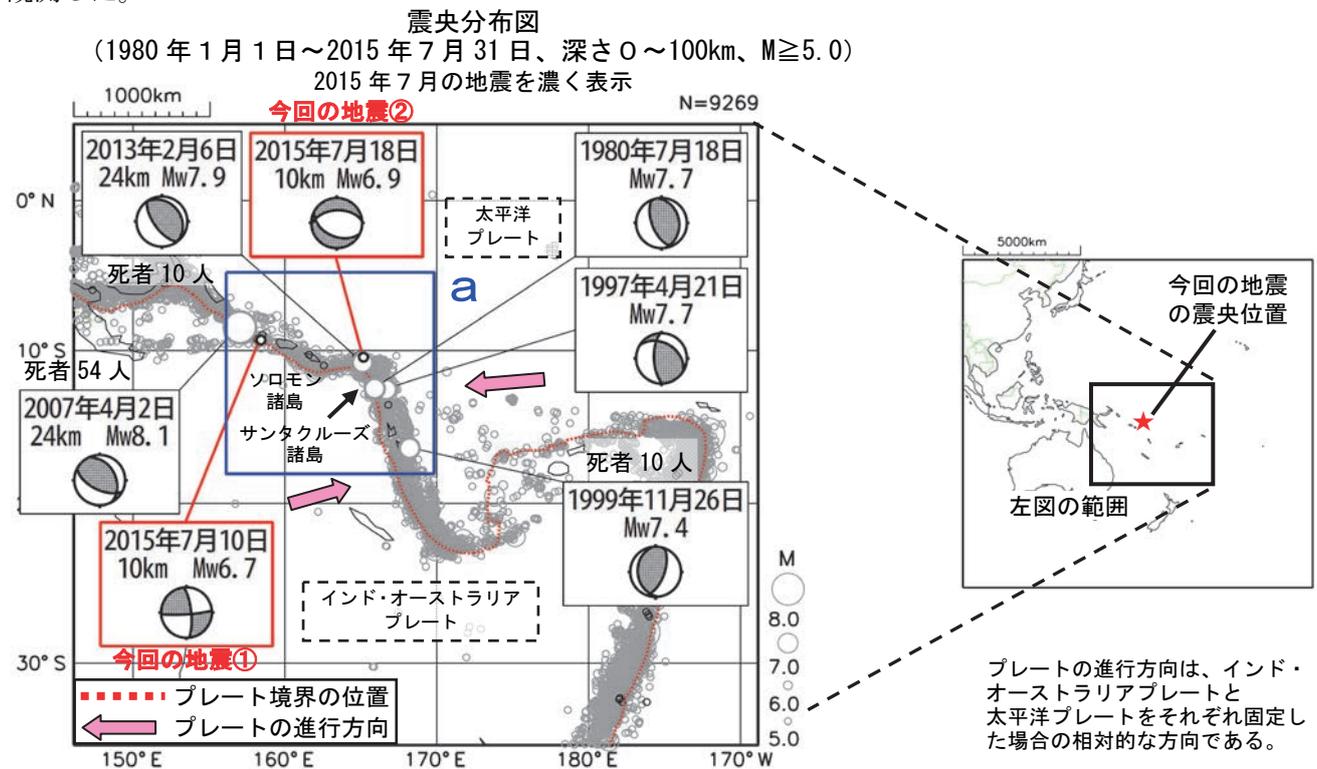
2015年7月10日13時12分（日本時間、以下同じ）に、ソロモン諸島の深さ10kmでMw6.7の地震①が発生した。発震機構（気象庁によるCMT解）は北東—南西方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型である。

気象庁は、この地震について、同日13時40分に遠地地震に関する情報（日本への津波の影響なし）を発表した。

また、2015年7月18日11時27分に、サンタクルーズ諸島の深さ10kmでMw6.9の地震②が発生した。この地震は太平洋プレート内部で発生した。発震機構（気象庁によるCMT解）は南北方向に張力軸を持つ正断層型である。この地震により、ソロモン諸島のラタで9cmなどの津波が観測された。

気象庁は、この地震について、同日12時04分（日本への津波の有無について調査中）と12時35分（日本への津波の影響なし）に遠地地震に関する情報を発表した。

1980年以降の活動を見ると、今回の地震①、②の震央周辺（領域a）では、M7.5を超える地震が時々発生している。2013年2月6日にはMw7.9の地震が発生し、ソロモン諸島のラタで104cmなどの津波を観測した。日本国内でも、北海道から九州地方にかけての太平洋沿岸、沖縄県、伊豆・小笠原諸島で津波を観測した。



プレートの進行方向は、インド・オーストラリアプレートと太平洋プレートをそれぞれ固定した場合の相対的な方向である。

※本資料中、今回の地震及び2009年以降の地震の発震機構とMwは気象庁による。その他の地震の発震機構とMwはGlobalCMTによる。震源要素は米国地質調査所(USGS)による(2015年8月3日現在)。2013年2月6日の地震の被害はUSGSによる。その他の被害は、宇津及び国立研究開発法人建築研究所国際地震工学センターによる「世界の被害地震の表」による。プレート境界の位置と進行方向はBird(2003)\*より引用。海外の津波観測施設の観測値は米国海洋大気庁(NOAA)による(2015年8月6日現在)。

\*参考文献 Bird, P. (2003) An updated digital model of plate boundaries, *Geochemistry Geophysics Geosystems*, 4(3), 1027, doi:10.1029/2001GC000252.